

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

株式会社 学研データサービス

②事業者情報

|        |                          |           |              |
|--------|--------------------------|-----------|--------------|
| 名称：    | 三原どろんこ保育園                | 種別：       | 保育所          |
| 代表者氏名： | 荒川 直志                    | 定員(利用人数)： | 90 名         |
| 所在地：   | 〒351-0025 埼玉県朝霞市三原3-23-2 | TEL       | 048-486-7470 |

③評価実施期間

平成27年11月12日(契約日)～平成28年4月(評価結果確定日)

④総評

◇特に評価の高い点

<手作りのおもちゃや遊具類を作って楽しい環境を整備しています>

2階に0～2歳児、1階に3～5歳児の保育室があり、それぞれワンルームの広いオープンスペースになっています。部屋の中には、園長や用務員が中心となって作った木製のおもちゃや遊具がたくさんあります。

0～2歳児の保育室には天蓋が壁面に沿って3か所にしつらえられ、そのほか、部屋の中に木製の手作り小屋があり、その隣にキッチンスペースを設け、子どもたちの大好きなごっこ遊びが小屋と連動して展開されています。また、子どもが興味をもったおもちゃを自主的に取り出せるように、手の届く低い棚に置かれています。さらに、子どもの足腰の強化のために斜面を使った手製の遊具もあります。

3～5歳児の保育室は木製の手作りパーテーションがいくつもあり、広い保育室をブロックのゾーン、ままごとのゾーンなどその日の子どもたちとの話し合いで設定して遊んでいます。手作りの移動式図書家具を保育室に運び、絵本ゾーンを作って静かに絵本を読んだりしています。ときには描画材料の置いてある移動式のワゴンを部屋の中央に運びみんなで製作遊びをしています。

園庭には、保護者と協同で作ったボルダリングや築山、つり橋、丸太遊歩道、ターザンロープなど遊び心いっぱいの、それでいて子どもの体力増強を意識した遊具があります。また、やぎや鶏も飼っていて生き物に触れることも大事にしています。

子どもたちはこのような環境の中で伸び伸びと過ごしています。

<ISO9001(品質マネジメントシステム規格)の認証取得を契機に「保育品質マニュアル」を作成しました>

法人は、従来から系列園の全職員にスタッフハンドブックを配付し、保育全般の業務について理解を深めるように図ってきました。そこには、法人の理念からはじまり、保育内容、地域支援など細かく記載され、職員の日常業務がスムーズに運ぶようになっていました。

今回、法人がISO9001を取得した契機に、スタッフハンドブックの見直しを図りました。そして新たに「保育品質マニュアル」として作成し、職員一人ひとりに配付しました。保育品質マニュアルは全体を26項目で構成してあります。法人の理念や特色、職員の基本スキルまで現場で生かされるように作られています。このマニュアルのもとに、職員全員が同じ目標をもち、子どもたちの「にんげん力」をはぐくむように、お互いに活動していくことを経営層は願っています。

当園の職員たちもこの保育品質マニュアルを常時見ながら保育を進めています。また、園長はこのマニュアルを使って研修を行っています。

**<地域子育て支援活動や地域の人たちとの触れ合いが充実しています>**

園長は、園が地域の中に根ざし、地域住民とともに歩いていくことが大切であると考えています。したがって、地域の子育て中の親子のいろいろな支援や地域住民との触れ合いの充実を図っています。

地域の子育て中の親子の支援としては、毎月、「ちきんえっぐだより」を作成し届けています。1月に例をとれば、室内遊びや子育て相談、寺子屋ならぬ寺親屋（役立つ講習・研修）としてお正月遊びや感染症について、自然食堂として七草粥やお好み焼き、お楽しみみそ汁、自然学校としてネイチャーゲームや野外遊び、芸術学校として節分製作など盛りだくさんです。

地域の人たちとの触れ合いとしては、世代間交流としてお年寄りとの触れ合い、近隣の人たちとの触れ合いとして商店街ツアーや「銭湯の日」などを実施しています。

このような多彩なイベントを実施して地域の方々と交流を図っています。そして、保育目標である「人対人コミュニケーション」の実現を目ざして、物おじせずだれとでも目を見て話ができる子どもを育成しています。

**◇特にコメントを要する点**

**<安全について一層の施策を望みます>**

安全対策は子どもたちの命を守るうえで最重要課題です。当園は自衛消防組織もあり、避難訓練をはじめ防災については十分に実施されています。ただ、防犯対策については一考を要します。不審者対策として、園内の施設についてはさらなる対策を期待します。

また、当園の前は道路があり自動車が通っています。玄関の前の道路の向こう側は公園になっていて、当園の子どもたちがこの公園で遊ぶこともあります。道路を横断する際に職員は十分注意して指導を行っていますが、暴走する自動車や居眠り運転などを考えれば、道路標識や、例えば「保育園あり、児童に注意」の看板を設置してドライバーに注意を促すことも考えられます。この看板などの設置については園独自ではできませんので、役所に申請して解決を図るように交渉していくことを期待します。

**<室内の環境整備についての取り組みを期待します>**

園庭や室内を裸足で自由に遊ぶなど子どもたちは伸び伸びと過ごしていますが、そのせいか、衛生面、特に清潔の面ではやや課題が残ります。裸足で遊んだ後、足を洗って室内に入りますが、十分に洗いきれず土がついていることもあり、幅広の縁側の隅にほこりや土があつたりします。また、保育室をパーティションでしきってゾーンを作り遊ぶこともありますが、広いスペースを縦横無尽に動き回り遊ぶことで、その結果、清掃が十分にいきわたっているとは言いがたい状況にあります。

子どもたちが自然と共生して楽しく裸足で遊ぶことと、いきわたった清潔な環境とはなかなか両立しがたい側面があります。ただ、保育室や縁側など、子どもたちが主として活動する場所の清掃については、職員会議で再検討してみたいと考えています。

**⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント**

第三者評価は、日ごろ取り組んでいる保育内容および運営全般について外部からの視点で気づきを得る非常に有効な取り組みであると認識しています。ここで明らかになった課題、成果、問題点などを職員および法人全体で共有し、よりいっそう質の高い保育サービスの実践のためにどんな取り組みが必要か、具体的なアクションにつなげてゆきたいと考えています。

**⑥各評価項目にかかる第三者評価結果**

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり